

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

＜市政相談連絡先＞

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

6月市議会定例会報告

令和7年第3回市議会定例会は、6月10日から25日までの16日間の会期で開かれました。

本定例会では、請負契約締結について（史跡箕輪城跡西側法面工事）、財産の取得について（小型バス）、財産の取得について（消防ポンプ自動車CD-I型）、公の施設（高崎市労使会館）の指定管理者の指定について、高崎市一時保護施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について、高崎市指定障害児入所施設等の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について、令和7年度高崎市一般会計補正予算（第2号・第3号）などの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

＜令和7年度一般会計補正予算を可決＞

一般会計補正予算（第2号）では、歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億4,984万9千円を、補正予算（第3号）では706万3千円を追加し、歳入歳出それぞれ1,664億2,626万8千円としました。

主な内容としては、総務費の市民安全推進事業・住まいの防犯対策補助金3,560万円、教育費の小学校給食事業・給食室補修工事820万円などが計上されました。また、児童相談所の設置運営に関する条例制定についても審議しました。

市民経済常任委員会において、職場環境改善事業補助金は良い事業であると思うが、今年度の申請内容の傾向について質問しました。また、観光費では小栗公ゆかりの地観光促進事業について、事業の目的や補助金の内容等を聞き、駐車場や通路等の環境整備を行い、安全対策を図るということです。大河ドラマの発表もあり、今後のPR活動や市全体への相乗効果が期待されます。



六月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、四日間にわたり二十七人の議員が行い、高橋みなおは二日目に登壇し、質問しました。以下、概要を報告します。

市民の思いと地方自治体の役割について

質問 物価高騰や関税政策による市場経済の混乱など、市民生活に与える影響は大きなものがある。市民の地方行政への関心と期待感が高まっている中で現状を踏まえ、今、行政が重点的に取り組む課題についてどのように考えているのか。

答弁 市民生活に最も近い基礎自治体である本市において、こども・子育て施策や産業振興施策など取り組むべき課題は多い。ライフステージや困りごとに寄り添い、きめ細やかに市民生活を支えていきたい。

質問 国や県との連携を密に取りながら行う事業がある一方で、地方自治体の考えや意識で改革できるものもあると認識しているが、そのような視点から地方自治体の役割をどのように捉えているのか。

答弁 本市のSOS事業や中小企業者支援事業など、これまでも本市独自の施策に取り組んできた。法令整備や国や県の通達を待つ

のではなく、スピード感を持って真に必要な事業を実施することが重要であり、基礎的自治体の役割であると考えている。

質問 地方自治法で改正された少額随契の基準額の見直しについて、昨今の物価高騰や事務の効率化の観点から基準額を引き上げられたが、本市の対応について伺う。

答弁 契約規則の改正だけでなく、関連する規則や規程を含め随意契約における制度全体の適切な運用が必要になるため慎重に協議し、基準額の見直しを進める。

質問 各地域の課題や意見を行政に届けていただく組織として地域振興協議会があるが現状は。

答弁 防災対策や鳥獣被害対策など地域固有の課題について理解を深めていけるよう開催している。

横断歩道橋の安全対策と今後について

質問 多くの横断歩道橋は老朽化により維持管理費の増大が懸念される。歩行者の安全対策として大きな役割を果たしていると認識しているが現状について伺う。

答弁 本市が管理している横断歩道橋は十九箇所あり、最も古いもので設置から五十六年経過している。耐用年数は一般的に六十年前後である。日常点検に加え五年に一回詳細

に点検を行い健全度を把握しており、対策が必要な場合は速やかに補修や補強を行っている。

質問 市内でも交通量の多い環状線の横断歩道橋も老朽化が激しく進み、地元区長会等からも早急な対応を要望されている。今後の横断歩道橋の対策とあり方についてどのように考えているのか。

答弁 経年による塗装の劣化も見られ、バリアフリー化などの課題もあるが、引き続き利用者の安全を確保するため必要な補修を行い適正な維持管理に努めていく。

質問 公共施設の適正管理の視点からも平面移動を主としたスクラップ・アンド・ビルドに取り組む必要もあると思うが見解を。

答弁 歩道橋の損傷や劣化の状況だけでなく、地域の実情や交通状況、立地条件、財政状況などを総合的に勘案し慎重に検討していく必要があると考えている。

♪ 後記 ♪

2020年2月、新型コロナウイルスの集団感染が発生した豪華客船が横浜港に入港し、出動要請を受けた災害派遣医療チームが未知の感染症に勇気をもって立ち向かい、乗客全員が下船するまでの日々を描いた映画が今年の夏上映されています。

その後の感染症への対応、社会の変化、人と人との繋がりが、そして周囲への感謝の心など多くのことを学び、経験した私たちももう一度振り返ってみる良い機会ではないでしょうか…